

# 授業実践の様相—解釈的研究

—「発言表」による子どもと教師の発言状況の分析—

田 代 裕 一

An Interpretative Study on the Aspect of Lesson Practice :  
The Analysis of Discussion by the Method of HATSUGENHYO

Yuichi Tashiro

## 1 授業実践の様相—解釈的研究

授業実践の様相—解釈的研究とは、重松鷹泰が創始した記述—解釈的な授業分析<sup>1)</sup>に基本的に依拠しつつも、授業の構造的全体像を作成して、その全体像を分析検討の際、共通の判断基盤にして、授業の特徴・問題性を解釈し指摘するという、質的な授業研究である。

この様相—解釈的研究では現在、具体的なツールとして「発言表」を用いているので、まず「発言表」について簡単に述べておく。「発言表」は、授業での発言を、現象の時系列を壊すことなく「眺め渡す」表であり、授業分析にとって有効な補助資料を提供することをその第一の目的としている。「発言表」は言語状況について感覚的に受け取ることのできる情報、例えば、初回発言の系列や、個人の発言状況、全体的な発言分布、相互関係などを形として示すことができる。

中村亨が「発言表」の理論やオリジナルタイプを考案し、田代はその応用的開発に取り組んできた<sup>2)</sup>。今回は、授業で用いられた主要な言葉を個人別に集計する欄を設けて、子ども個々の発言内容がより明確になるような試みをしている。この「発言表」を用いて、今まで「社会科の初志をつらぬく会」<sup>3)</sup>の全国集会での提案実践を学年ごとに分析し、さらに授業の全体的展開とグループ活動の関連、カリキュラムの展開過程などを追究してきたが<sup>4)</sup>、今回は、同一

の教師による連続した授業実践を取り上げ、前述した工夫を加えた「発言表」を用いることで、授業での子ども個々および教師の発言の特徴や、授業間での変化・連続の状況を、特に内容面から明瞭にしたいと考えた。また、「発言表」による分析結果について、授業者へのインタビューを行って、授業実践の様相—解釈的研究が授業の当事者にとってどのような意義を持っているのか、といった点も検討したい。

以下、「発言表」の作成手順、等について簡単に示しておく。

- ①基本的に発言者名欄及び、発言状況欄から構成される。
- ②発言状況欄には、授業記録上の全発言の長さを、縦の実線として記入する。  
授業記録の2行分（今回の一行は最大で25字）を一単位として記入する。
- ③授業において用いられた「主要な言葉」を選択し、記号化して記載する。  
但し、1回の発言で同一の「主要な言葉」が複数回用いられても、その記号は1つだけ記載する。
- ④作成機材としてはワープロ、もしくはパソコンによる。今回はワープロで作成した。

## 2 今回の分析事例

佐賀県H小学校5年（W先生指導）「総合的な学習」2009年度実施「未来に残そう 東の浜」の実践から2つの授業を取り上げて分析する。この実践を事例として取り上げた理由は、授業での子どもの発言が多く、子どもの相互作用が活発であり、「発言表」による分析対象として適切だと考えたことによる。さらに、この実践は「社会科の初志をつらぬく会」の夏期全国集会で提案されるなど、一定の共同検討を経たものである。資料としては、本会の機関誌である「考える子ども」に記載された実践記録（事例②）、および2010年の夏期研究集会の際に配布された補助資料（事例①）を用いた。この実践では、1学期に東の浜を探検し、ゲストティーチャーからハマヒルガオの話を聞き、その種まきなどを行っている。ちなみにW先生は、筆者とは20年以上の実践・研究上のつながりのある、ベテランの女性教諭である。

**【2 学期の主な学習の流れ】**

- (9/15) 「浜崎—東の浜のたんけん」
- (9/25) 「浜崎海岸と東の浜についての気づき」
- (10/5) 「ST さんのお話：唐津の海」
- (10/6・15) 「ST さんに学んだこと」
- (10/20) 「東の浜たんけん」
- (10/23) 「東の浜たんけん」
- (10/26) 「たんけんて気づいたこと」
- (10/28) 「唐津の海のことをもっと知ろう」
- (11/5) 「聞き取りからわかったこと」
- (11/6) 「聞き取りからわかったこと・未来予想」…分析事例①
- (11/17) 「私たちにできることは何だろう」…分析事例②
- (11/18・25) 「私たちにできることは何だろう」
- (11/27) 「東の浜の水質検査」
- (12/1) 「KM 先生のお話」
- (12/2) 「だれに何を発信していくのか」
- (12/22) 東の浜の清掃活動

3 学期はこれらの活動を発展させて、「ステージ発表」、さらに新聞への投稿、チラシ、ポスター、ミニ看板づくりといった具体的な活動を行っている。

**3 授業の分析****〈事例 1〉**

2009 年 11 月 6 日の授業について以下、その経緯・概略を述べる。唐津の海をもっと知るために、地域の人（ホテルの人、A 保育園の先生、地域の方、東の浜を散歩している人、知り合いの人など）にインタビューを行い（10 月 28 日）、その結果を 11 月 5 日・6 日の授業で報告している。インタビューの項目は、砂浜の広さ、海水のきれい・よごれ、浜崎海岸との違い、けずれ（浸食）ができたのはなぜ？ごみの量の変化（いつごろから）、けずれのほかに変化は

あるのか？どうしたら東の浜をきれいにできるのか、などであった。11月6日の授業ではこのインタビューの報告と併せて、東の浜の未来予想をしている。

原授業記録は、2010年度の「社会科の初志をつらぬく会 全国集会」5年生分科会（2010年8月9日・10日）で配布された補助資料に掲載されている。以下の分節分け、および分析は筆者による。Tは教師、Cは不特定・多数の子どもの略号である。子どもの名前は全て仮名である。巻末に「発言表」を掲載しているので参照されたい。なお、「発言表」の原版はB4版であるが、紙面の都合で縮小（縦53%、横51%）している。

・第1分節（T1～T5）

教師が昨日の授業で出された内容（雨天時の東の浜の様子、ゴミの量など）を確認し、本日の授業の課題（インタビュー結果で、5日の授業では出てなかったものを報告する）を示している。

・第2分節（A男6～D男14）

A男が聞いてきたこと（酢や洗剤を流してはいけないこと、東の浜への母や姉の意識）を報告している。また、C子はゴミへの対応として、みんながゴミを拾うようにと唐津市報に書いたらいいと聞いた、と述べている。

・第3分節（T15～B子29）

教師がA男やC子の報告に質問がないかと子どもたちに尋ね、市報には簡単に意見を載せることができるのか、といった点が検討されている。

・第4分節（T30～D男53）

浜崎（他地区の海岸の名）と東の浜の違いや、アサリ貝がとれなくなったこと、が報告されている。

・第5分節（T54～C子74）

浜崎海岸と東の浜の砂の色の違いや、東の浜で注射器が落ちてないか調べている人のことが話題になる。

・第6分節（T75～D男85）

東の浜の陸地が少なくなっていることが話題になる。

・第7分節（T86～T116）

東の浜の未来予想として、砂がもっと汚くなる、何もしないと住むところ

がなくなる、海底の砂がなくなる、東の浜を残そうと努力すれば、東の浜はきれいになる、といった考えが出ている。

・第8分節（F子117～D男123）

どのようにすれば地球温暖化を防止できるのか、について意見が出ている。

・第9分節（T124～T134）

教師が話題を転換させて、東の浜の未来予想に戻している。このままだったら汚くなる、自分からゴミを拾えばきれいになる、もっときれいになって欲しいので校区内清掃をする、といった意見が出ている。

### ○授業の発言状況

授業全体で、教師の発言は48回、子どもたちの発言は86回、教師と子どもの発言回数比は1対1.79である。子どもたちは12名が発言している（このクラスは14名である）。D男が17回、A男16回、B子11回、C子7回と、多く発言する子どもがいる。第2分節、第8分節は子どもの発言から始まっているが、それ以外は教師の発言から始まっている。

第1分節では、教師が3回発言して、前時の授業内容と本時の授業の課題を確認している。子どもからは1単位の発言が2回出ている。

第2分節では、A男が教師の対応を受けつつ、3回発言している。これはインタビューの報告であり、3単位、5単位、5単位と長い発言である。C子も5単位、8単位の長い発言をしている。

第3分節では、T15の3単位の発言の後、E子が3回、F子が2回、A男が3回発言をして、前の分節でのC子の発言について質問し、確認している。C子25は6単位のつけ加えの発言をしている。それに対し、D男26、G男27が言及するなど、子どもたちの間で活発に意見が交わされている。

第4分節では、T30の話題転換の後、H男が、教師と一対一的対応をしつつ、4回発言している。その後、D男38が9単位の長い発言をしている。I男41も3単位の発言がある。F子は教師とやり取りしながら、5回発言している。このように子どもたちがインタビューで聞いたことを丁寧に述べている。この分節で教師は9回、発言しているが、最初の発言を除くと1単位の短いものは

かりである。

第5分節は、E子56やD男58の短い発言の後、B子が教師やK子と対応しながら5回発言している。関連する発言をC子も2回している。

第6分節は、H男、B子、D男、F子が1単位の短い発言を出している。D男は3回、発言しているが、全般的に短いやり取りが多い。

第7分節では、教師が5単位の発言をして、話題を変えている。B子、D男、A男らの短い発言の後、L男が教師やJ子と対応しつつ、5回発言して自分の考えを述べている。その後、B子103、D男105の4単位の発言がある。さらにI男も教師やA男と対応しながら3回発言している。A男は112で7単位の発言をして、自分の考えを丁寧に述べている。D男115も3単位の発言をしてA男に言及している。このように様々な考えが次々に出ている。

第8分節では、F子117が3単位の発言を出して、自分の考えを出している。A男118は7単位の発言を出して、一部、その誤りを指摘し、自分の意見を述べている。さらにそのA男に対して、D男も3回発言して、誤りを訂正している。このように3名の間で確認や訂正がなされている。

第9分節では、教師がT124で話題を転換している。C子は2回発言して、自分の考えを述べている。G男130は9単位、A男133は6単位の長い発言をして、自分の考えを出している。

以上のように、本授業では教師が丁寧に対応しながら、子どもの発言内容や意思を確認していた。子どもたちは、インタビューしてきたことに関して長い発言をしていた。子どもどうしでの積極的な意見のやりとりが第3分節、第7分節、第8分節、第9分節、等でみられた。特に、第7分節では東の浜の未来について異なる考えが出ていたが、議論にまでは発展していなかった。教師は多くの子どもたちにできるだけ発言させようとしていた（発言のなかった子どもは2名）。しかし、話題が細かい点になったり、検討が長くされている場合には元に戻っていた。

## ○言葉・概念の展開状況

本授業での「主要な言葉」は、第1分節でのゴミ、第7分節での松原、未来を除くと、子どもから先に出ている。

第1分節では、教師がT1でゴミを用いて、授業の課題を提示している。

第2分節では、まずA男が3回の発言(6・8・10)の中で、東の浜を2回、浜崎、ゴミ、貝、ゴミ拾いを1回出して、自分がインタビューしてきた内容を報告している。C子は2回の発言で(11・13)、東の浜、ゴミ、市報を2回、ゴミ拾いを1回用いて、みんなゴミを拾うよう市報にのせるといいと聞いたと発言している。

第3分節では、E子(16・23)やA男(22・24)が市報を用いて、市報の意味や、市報に自分たちの記事をのせることができるのか、確認している。D男26はお金を出して、市報に載せるのにはお金がかかるのでは、と発言している。G男27もお金を用いて、お金がかかっても載せるべきといった意見を出している。B子29もお金を用いて、そのことに関連づけた発言をしている。このように市報→お金といった点が主な話題になっている。その他に、F子19、C子25、G男27は市役所を出して、市報の発行元である市役所の働きを推察している。

第4分節では、まず教師がT30で市報、東の浜を用いて、今までの話題(市報)を転換させて、東の浜について、まだ他にインタビューしたことを発言するよう促している。H男31は浜崎、東の浜、ゴミ、自覚を用いて報告している。それに対して教師はT34・35で自覚を用いて、H男の自覚を尋ねている。D男38は砂、浜崎、東の浜、ゴミを用いて、自分が聞いてきたことを詳しく述べている。F子は5回の発言で、貝を3回、砂を2回、ゴミ、ゴミ拾いを1回用いて、アサリ貝がとれなくなると報告している。教師は、F子に対して、貝を3回用いて対応し、その中身を丁寧に確認している。

第5分節では、E子56が浜崎、東の浜、砂、D男58が東の浜、B子60が浜崎、東の浜、砂、市役所を用いて、浜崎と東の浜の違いを述べている。教師もT57で砂を用いて、砂の色を確認している。B子は62では注射器を用いて、ゴミの中身について述べている。K子65もゴミ、注射器を用いて、注射器は

外国から来たと言っている。C子72もゴミを用いて、関連的な発言をしている。教師は、T61・63で注射器、71で市役所、注射器、ゴミ拾いを用いて、子どもたちの発言に対応して、内容を確認している。

第6分節では、教師はT75でゴミを用いて、前の分節の発言を整理し、他の情報を紹介するように促している。H男76は砂と陸地を出して、陸地が少なくなっていると述べている。教師はT77で陸地、T79で東の浜、陸地を用いて、陸地の状況を確認している。

第7分節では、教師はT86で陸地、東の浜、松原、未来を出して、東の浜の未来予想を出すように促している。D男87やB子88はこのまゝを用いて、自分の考えを出そうとして、少し発言している。L男は96で砂、100でゴミ拾い、砂を出して、みんながゴミ拾いをしたら東の浜はきれいになると主張している。教師はT101で砂と未来を出して、L男の発言内容を整理している。その後、B子103はこのまゝ、未来、ゴミ、東の浜、松原を用いて、ここまゝだと住むと所もなくなると述べている。D男105もこのまゝ、松原、ゴミ拾い、東の浜、ゴミとほぼ同じ言葉を用いて、このまゝだと東の浜がゴミの山になると述べている。I男は教師とやりとりしつつ、106、108の2回の発言の中で、砂と海底を2回、ゴミ、このまゝを1回用いて、このまゝだと浜が狭くなり、海底の砂が減って大変だと述べている。A男112はこのまゝ、ゴミ拾い、ゴミ、松原、砂、東の浜と多くの言葉を用いて、I男らに対して、マイナスなことを考えるのではなく、ゴミ拾いをして東の浜を残そうと思えば、東の浜はきれいになると主張している。D男115も松原を出して、A男の発言に関連した発言をしている。このように、子どもたちは自分の意見を積極的に出し合っている。特にA男の発言は行動化を主張するもので、貴重なものであったと思われる。

第8分節では、F子117が砂、地球温暖化、ゴミ、東の浜を出して、地球温暖化を防ぐことを主張している。A男118もゴミと地球温暖化を出して、ゴミで地球温暖化になるのではないとF子の意見を少し訂正し、自分の意見を出している。D男123も地球温暖化を出して、A男の発言を訂正（電気は地球温暖化につながらない）している。このように地球温暖化について検討されている。

第9分節では、教師がT124で、地球温暖化、東の浜、未来を用いて、話題



を地球温暖化から、東の浜の未来に戻している。C子は126でゴミ、東の浜、このまま、128で市報、ゴミ拾いを出して、このままだったら汚くなる、市報に書かなくてもみんながゴミを拾ったらきれいになると述べている。教師はT127でゴミ拾い、T129で自覚、市報を用いて、C子の発言を確認し、第4分節で出たH男の意見（自覚すること）に言及している。G男130はゴミ拾い、陸地、ゴミ、砂、海底を出して、清掃した後でもゴミが増えるから浜の汚れはひどくなると述べている。それに対して、教師はT131で自分はどうしたいのかと尋ねている。G男132はゴミ拾いを出して、きれいにしたいと発言している。A男133はゴミ拾い、東の浜、ゴミを出して、ゴミ拾いをすればきれいになると主張している。

全般的に、子どもたちからゴミ、砂、東の浜、ゴミ拾いが多く出ており、東の浜のゴミや砂の汚れ・減少、対応としてのゴミ拾いを重視していたといえる。第7分節では、ゴミ拾いは浜をきれいにしたり、浜を広くする上で有効なのかについて意見が出されていた。また、特定の分節で用いられた言葉としては、市報（第3分節）、貝（第4分節）、注射器（第5分節）、このまま（第7分節）などがあった。子どもたちは、これらの言葉を用いて、東の浜の実態やこれからどうするのかについて熱心に語っていた。市報へのゴミ拾いの掲載可能性は、お金という観点から検討されていた。教師は子どもから出た自覚、貝、陸地などを用いて、その内実を明らかにしていた。その一方で、教師は未来を3回、用いていたが、子どもの方は（発言の中身では、未来について述べているものの）、言葉としてはB子が1回用いているだけであった。

## 〈事例2〉

○2009年11月17日 前回の授業での東の浜の異変の報告や未来予測を踏まえて、「私たちにできることは何だろう」という点について話し合っている。原授業記録は「考える子ども」331号 2010年（50頁～68頁）に掲載されている。なお、11月10日～15日はインフルエンザで学年閉鎖となっており、

これが11月6日以降、最初の「総合的な学習の時間」の授業である。

・第1分節 (T1～A男5)

前回の授業で出された、東の浜の未来予想（きれいになって世界の人が遊びに来てくれる、砂がなくなり松原も海に浸かる、など）について教師が確認している。

・第2分節 (T6～T39)

まず、砂がなくなると予想した子どもたちが発言している。そして、ゴミを拾うよりも、海底の砂をとらないようにしたらいいという発言が出て、ゴミ拾いには意味があるのかが議論されている。最後の方で、海底の砂をとっていることについて意見が出ている。

・第3分節 (T40～B子54)

海底の砂をとる理由が話題になり、砂をとることにどう対処できるのかが話し合われている。

・第4分節 (T55～T116)

教師が、現状を踏まえた上で自分たちはどんなことができるかと尋ね、子どもたちは様々な方策（ゴミ拾い、看板づくり、市報、回覧板、チラシ、新聞、ポスター）を出し、どれがよいかを話し合っている。

・第5分節 (D男117～D男153)

D男が新聞まで大げさにしないでもいいと発言したことから、新聞に載せることは難しいかどうか話し合われる。

・第6分節 (T154～D男174)

教師が市報とはどのようなものか尋ねている。子どもたちは市報について、経験（見たことなど）を出したりして確認している。

・第7分節 (T175～G男233)

子どもたちは再びどのような方策がよいのか、議論している。

・第8分節 (T234～T264)

教師はだれに対してのアピールなのか今度、考えようといっている。また、砂をとる人のことをどう確かめるかと尋ね、子どもも少し発言している。教師は今後の活動を確認して授業を終わっている。

## ○授業の発言状況

授業全体で、教師の発言は82回、子どもたちの発言は182回である。教師と子どもの発言回数比は1対2.22である。教師の発言は、子どもと一対一的になされていることが多い。子どもは13名が発言している。子どもの発言は1単位のものが多いが、4単位以上の発言も13回ある。前回の授業と同じように、D男45回、A男29回、B子21回、C子19回と、発言が多い子どもがいる。第2分節は子どもの発言から始まっているが、それ以外の分節は、教師の発言から始まっている。

第1分節では、教師の4単位と7単位の発言がある。それに対して子どもの方は1単位の短い発言が3回だけである。

第2分節では、教師の発言の後、7名の子どもが発言している。教師は10回発言しているが、8回は1単位の発言で、子どもたちと一対一的に対応していることが多い。D男は8回発言がしている。その後、C子32が4単位、A男33やB子37が6単位と、長い発言が出ている。初回発言者は5名である。

第3分節では、教師の2単位の発言の後、B子41、G男44の5単位の長い発言がある。その後、J子、D男が発言している。A男53、B子54も5単位の発言がある。J子・D男対G男・A男との間で議論になっている。B子54は双方に配慮した慎重な意見を出している。初回発言者はいない。

第4分節では、教師の発言の後、I男58が3単位の発言、B子61が7単位の発言をしている。その後、D男62の発言を契機に、D男とC子との間で質問—応答がなされている。教師はT81・83で議論を整理し、他の子どもの意見を求めている。A男88、F子91から関連的な発言が出ている。その後、G男92、M子94の発言が出て、話題が少し変わっている。

第5分節は、D男117の発言から始まっている。それに対して、C子118が反論している。教師119はこの両者の発言を整理し、全体に問いかけている。K子は連続して発言し、自分の考えを出している。それに対する付け加えが、C子141からなされている。教師は9回、発言している。

第6分節では、教師がT154で5単位の長い発言をして、前の分節での話

をまとめ、追究の方向を変えている。C子、D男は5回発言して、積極的に意見を出している。その他に、G男、F子も発言している。

第7分節では、多くの子どもの意見を確認するために、教師が子どもと一対一的な対応をして、発言を促している。ここでは教師は24回発言しているが、ほとんどは1単位の発言で、その子どもの発言内容を明確にしようとしている。J子は5回発言をしている。その後、A男の8回の発言がある。また、F子も9回発言して、自分の考えを出している。

第8分節では、教師がT234で授業の終了を予告しているが、新たな課題も提示して、子どもの発言を促している。I男、G男が4回、D男、A男が3回、B子、C子が2回と複数回の発言が出ている。教師の発言は12回で、I男やG男の発言にはかなり言及している。

以上のように、本授業では教師による丁寧な対応によって、多くの子どもの発言が出ていた。子どもたちは自分の意見を十分に出し、第3分節や第4分節、第5分節では対立する意見が出て、議論が起きていた。特に、D男とC子は、ゴミを拾うように訴える方策をめぐって、真っ向から議論しており、周囲の子も巻き込んで、検討が広がっていた。ただ、教師が発言を促しても、発言しない子どもが1名いた。

#### ○言葉・概念の展開状況

本授業での「主要な言葉」に関して、教師が第1分節で東の浜、ゴミ拾い、海底、砂、松原を先に出している。また、第4分節で写真、第7分節でアピールを出している。それ以外は子どもの方から先に出ている。

第1分節では、教師がT1で東の浜、ゴミ拾い、T3でゴミ拾い、東の浜、海底、砂、松原を出して、前時の復習と本時の課題確認を行っている。子どもからは主要な言葉は出ていない。

第2分節では、I男7とD男9が海底を用いて、海底の砂をとっている問題を指摘している。教師はT8で海底、砂を用いて対応している。その後、A男13やG男15は松原を用いている。教師もT14で松原を用いて、これらの発

言に言及している。その後、G男19がゴミ拾い、D男25もゴミ拾い、砂、ゴミを出している。他の多くの子どもたちもゴミ拾い（E子30、J子31、C子32、A男33、B子37）や砂（J子31、A男33、B子37、D男38）を出しており、ゴミを拾ったら浜（砂）は増えるか、について検討がなされている。教師はT34で砂を用いて、これらの発言に対応している。D男38は仕事で稼ぐを出して、砂をとる人は仕事だから簡単には止めてくれないと述べている。

第3分節では、まず教師がT40で海底、砂を用いて、前の分節の内容を確認している。B子41は仕事で稼ぐ、確かめを用いて、東の浜の砂のけずれと、海底で砂をとっていることに関連は確かめる必要がある、そうだとしたら市の人も働くのではと述べている。教師はT42で確かめを用いて、この発言に言及している。G男44はゴミ拾い、砂、仕事で稼ぐを用いて、海底の砂をとるのをやめてもらえれば浜が滑らかになる、という意見を出している。その後、J子47は砂、D男50はゴミ拾い、砂、A男53は砂、B子54は砂、東の浜、ゴミ拾いを出して、ゴミを拾っても砂は取られるのではないか、海底の砂を取る人にとらないように言うべきなのか、といった点が検討されている。

第4分節では、自分たちにできることとして、I男58がゴミ拾い、看板、海底、ゴミを出して、東の浜の現状を述べ、具体的な方策（看板）を出している。D男62は前の授業でC子が出していた市報や、さらに回覧板を方策として出している。教師はT63で市報や回覧板を用いて、この発言を取り上げている。C子69は市報と新聞を出して、インタビューの人は市報と言っていたし、自分も市報でもいいけど、仕事をしていたら市報はあまり見ないので、市報より新聞の方がいいと主張している。それに対して、D男が3回の発言で新聞を用いて、新聞の問題（とってない人がいる、いろんな新聞がある）を指摘する。教師はT81で市報と新聞を用いて発言を整理し、T83で新聞を用いて、子どもたちに意見を求めている。E子85は看板とゴミ拾いを用いて、看板もいいけど、ゴミ拾いをしている姿を見てもらうことが大事と述べている。A男88はゴミ拾い、市報、新聞を出して、自分たちに出来ることはゴミ拾いで、市報、新聞は簡単に作れないと発言している。F子91は市報、新聞、お金を出して、新聞は載せるのにお金がかかるのではと発言する。M子95は東の浜とゴミ拾

いを用いて、ゴミ拾いをしているところを見てもらうにも人がいなかったら効き目がないので、プリントをコンビニとかで見てもらえばと発言している。教師はこの発言に対して、T96 でゴミ拾い、写真、チラシを用いて確認している。このようにゴミ拾い、看板、市報、回覧板、チラシ、新聞、ポスターなど、様々な方策が提案され、検討されている。

第5分節では、D男117が新聞を用いて、新聞にまでおおげさにしなくてもと述べている。それに対して、C子118は新聞、市報、看板、東の浜、作文を用いて、新聞に自分たちの作文をのせたらよいと提案している。教師はT119で東の浜、作文、新聞を用いて、C子の発言を確認し、他の子どもたちに新聞に載せるのは難しいか尋ねている。K子124も新聞を用いて、以前、このクラスの者が新聞に書いた時の経験を出している。教師はT128でお金を出して、その時、新聞に書くのにお金がかかったのか確認している。B子134は作文、K子は135でゴミ拾いを用いて、前に新聞に載せた内容を述べている。K子は138でゴミ拾い、新聞、写真を用いて、写真とかで拾っているところを新聞に載せたらいいと提案している。C子141はこのB子やC子の発言に言及して、写真、作文、お金を用いて、全部合わせて写真や作文を新聞に載せたらいいと提案し、さらにお金がかからないと述べて新聞を推している。D男143は新聞、お金を用いて、取材にはお金がかかるのか教師に尋ねている。教師はかからないと答え、さらにT150で新聞を用いて、どうやって新聞ができていたか、以前の学習を確認している。このように教師も新聞には丁寧に対応している。

第6分節では、教師がT154で新聞、市報を用いて、新聞に載せるのはみんなの働き方しだいと述べ、さらに市報について確認している。G男167、C子168、D男170・172が市報を用いて、市報とはどのようなものかについて発言している。教師はT169で市報を用いて、市報の中身を知ることが必要と述べている。

第7分節では、教師がT175でゴミ拾いを用いて、ゴミ拾いも（市報に）載せてもらえるか考えるよう促し、さらにJ子に、自分の意見はこれまでの方策の中にあるかと、発言を促している。J子178は新聞と市報を用いて、いろんなところに（広報）するなら新聞がいいが、唐津市だけなら市報がいいと発言

している。教師は T179 でアピールという言葉を用いて、J 子の主張をさらに確かめている。J 子 182 は市報を用いて、唐津市だけなら市報がいいと発言している。それに対して教師はどちらの方が効果があるか尋ね、J 子 190 は、新聞を用いて、ゴミを捨てるのが唐津の人じゃないなら新聞がいいと答えている。その後、教師は T193 で L 男に意見を求めるが、L 男がとまどっているのが、A 男 200 は看板、市報、F 子 (201、203、206) は看板、ゴミ拾い、チラシ、ポスターを選択すべき項目を L 男に提示している。L 男 207 はポスターと答えている。D 男 209 や T210 もポスターを用いて、L 男の意見を確認している。H 男 216 は東の浜を出して、東の浜の状況（漁師の使う網の浮輪がある）を示している。H 男に対して教師は、T217 でアピールを用いて、漁師にもアピールするのかと尋ねている。さらに、教師は T225 で、ポスターを用いて N 子に意見を尋ねている。N 子が答えないので、L 男にどうするかと再度、確認している。L 男 225 は新聞と答えている。教師も T227 で新聞を用いて、この発言を取り上げている。F 子 229 は市報と新聞を出して、どちらにも載せてもらえればいいと発言している。

第 8 分節では、教師は T234 でアピール、看板を出して、誰へのアピールか考えておくように指示し、I 男に誰に対しての看板か尋ねている。I 男は浜に来た人、と答えている。教師はさらに看板の中身を尋ね、I 男は 237 でゴミ、看板、239 でゴミ、砂を出し、ゴミか砂と発言する。T240 は海底、砂、アピールを用いて、I 男の発言を確認している。T242 は確かめを用いて、前に出た課題（海底の砂をとるから、東の浜がけずれているのか）をどうやって確かめるか尋ねている。G 男 244・248 は確かめを用いて、本とかで調べると発言する。また、教師は T256 で自分たちがまずしなければいけないことを尋ね、A 男 257 はゴミ拾いを出している。教師は T258 でも確かめを用いて、（市報についても）調べておくように指示している。C 子 260・263 は市報を用いて、自分は家で見ることができると述べている。このように最後は、調査や行動に関してやや教師の指示が多くなっている。

このように見てくると、本授業で、多くの子どもが自分の考えを十分に出していたといえる。そして、海底の砂をとることをどう考えるか・どう対処するか（第2分節）、ゴミ拾いを提唱するのに新聞がいいか市報がいいか（第5分節）といった点に関しては真剣な深い議論が生じていた。新聞への掲載の可能性や掲載すべき内容についても詳しい検討がなされていた。ただ、この授業では、最後、新聞と市報のどちらにも掲載したらいいという意見も出て、どちらを選ぶかという結論には至っていなかった。教師は確かめやアピールを多用するなど、積極的な活動が生まれるように指導を行っていた。新聞も多く用いていたが、ここには、教師がゴミへの対策として新聞を取り上げたいという意味が伺えた。一方、子どもたちからは、新聞や確かめは多く出ていたが、アピールまでは出ていなかった。

#### 4 子どもの発言状況 ①は事例1、②は事例2の授業を示している。

以下、「発言表」による授業分析をもとにして、子どもについて把握できたこと（筆者の解釈）を記している。

〈A男〉…東の浜を大事に思う発言が多く、一貫してゴミ拾いなど、ストレートに行動することを提案している。

- ①授業全体を通して、強く東の浜を守りたいという意識を持って発言している。守ろうとすれば浜は守れると主張して、ゴミ拾いなど、行動することを提案している。ゴミを5回、東の浜を4回、ゴミ拾いを3回用いている。その他に市報を2回、貝、このまま、松原、砂、地球温暖化を1回と、多くの言葉を用いている。第2分節では、3回発言して、浜崎、東の浜、ゴミ、貝、ゴミ拾いを用いて、インタビューでゴミ拾いをするのが大事だと聞いたと話している。第3分節では、市報を2回、ゴミを1回用いて、市報に掲載することはできるという意見を出している。その後、第7分節では、112で7単位の長い発言をして、このまま、ゴミ拾い、ゴミ、松原、砂、東の浜、と多くの言葉を用いて、将来についてマイナスなことを考えるのではなく、ゴミ拾



いをして、東の浜を残そうと努力すれば、浜はきれいになると主張している。

↓

- ②全ての分節で発言している。前回と同様、ゴミ拾いが4回と多い。その他、新聞を3回、砂、市報、看板を2回用いている。第2分節では、松原の他に、ゴミ拾い、砂を用いて、ゴミ拾いをしていれば業者は海底の砂をとらなくなるのでは、と発言している。第4分節では、ゴミ拾い、市報、新聞を用いて、自分たちに出来ることはゴミ拾いだと述べている。またチラシやポスターも用いて、チラシはポスターよりいいと発言している。第8節でもゴミ拾いを用いて、自分たちがするべきことは、ゴミ拾いと発言している。

〈B子〉…全体的なバランスを配慮した、「慎重かつ実現可能性のある提案」をしている。また、他の子どもや教師への反応も早く、色々な場面で他者への気配りが感じられる。\*W先生はこのB子を抽出児に設定して、カルテを「考える子ども」に記載しているが、そのカルテの内容と、これらの授業でのB子の動きとはかなり一致したものがある。

- ①第1分節では、教師からの本時の準備に関する問いかけに、すぐ応えている。第3分節では、お金といった、そこで話題になっている言葉を用いている。第5分節では、5回発言して、浜崎、東の浜、砂、市役所、注射器を用いて、ゴミの中身やそれを集めている人たちについて述べている。第7分節でも、そのままというD男が出した言葉に反応してすぐに用いている。さらに、このまま、未来、ゴミ、東の浜、松原を用いて、このままだったら住むところがなくなると危機感を示している。なお、未来は教師が出した言葉であるが、子どもではB子のみが用いている。

↓

- ②第1分節以外の分節で発言がある。第2分節では、海底、砂、東の浜、ゴミ拾いを出して、海底の砂をとるから浜の砂がなくなっているのかはまだ分からない、と慎重な考えを出している。第3分節では、仕事で稼ぐ、確かめを用いて、海底の砂をとることと東の浜の砂が減ることの関係は確かめないといけないと述べている。また、砂、東の浜、ゴミ捨てを用いて、まず自分た

ちからできるゴミ拾いからはじめて、もし海底の砂を取ることが東の浜の砂の減少につながっていて、もし言えるなら言っていけばいいと、手順・段取りに配慮した意見を出している。第4分節では、看板とゴミを用いて、看板もいいアイデアだけど、今まで看板があってもゴミが減っていないので、みんなが見るようなところに載せてもらったら、と丁寧に自分の考えを述べている。第6分節では、作文を出して、以前、自分たちが新聞に載せた経験を出している。

〈C子〉…ゴミ拾いの大切さを主張する方策について積極的に提案している。その方策は、市報（事例①）→新聞（事例②）と、変わっているが、自分なりの意見を持って、粘り強く主張している。

- ①ゴミを5回、東の浜、市報を3回用いて、焦点を絞って追究している。第2分節では、市報を用いて、市報に（ゴミを拾うように書いて）載せたらいいと言われたと発言している。第9分節では、ゴミ、浜崎、このまま、市報、ゴミ拾いを用いて、このままだったら東の浜は汚くなる、市報に書かなくても、自分からゴミを拾うと発言している。

↓

- ②市報を7回、ゴミを3回、新聞を2回用いている。市報は前回、インタビューした人に勧められた方策であるが、新聞の方がより幅広く示せるということで、今回の授業では新聞を推奨している。その他に、作文、写真、ゴミ拾い、看板、東の浜、お金、と、多くの言葉を用いている。第5分節では、D男117の、新聞までおかげさしにしないでという意見に反論し、新聞、市報、看板、東の浜、ゴミ、作文を用いて、新聞のメリットや、どのような内容を新聞に載せたらいいかに関して積極的な提案を行っている。

〈D男〉…多くの場面に出て、正確な情報を提供している。他の子どもの意見をよく聞き、いい面は取り入れ、間違っ点は訂正している。事例①では、お金の心配から、市報にやや慎重であったが、事例②では、市報を提案しており、新聞を提案するC子と議論になっている。

- ①第3分節では、お金を用いて、C子の出した市報はお金がかかるのではと慎重な意見を出している。第4分節では、砂、浜崎、東の浜、ゴミを用いて、インタビューしたことを発言している。第5分節では、東の浜を用いて、浜の砂の色について述べている。第7分節では、このまま、未来、ゴミ、東の浜を用いて、このままだったら浜がなくなってゴミの山になると述べている。第8分節では、地球温暖化を用いて、地球温暖化に関するA男の発言の誤りを訂正している。

↓

- ②全体で45回と大変、多く発言している。市報と新聞を5回ずつ用いているが、具体的な方策として市報を提案している。第2分節では、9回発言して、ゴミ拾い、砂、ゴミ、仕事で稼ぐを用いて、ゴミを拾うことも大切だけど、(海底の)砂をとる人がいると述べている。第3分節では、ゴミ拾い、砂を用いて、浜がきれいになったら(海底の)砂をとらなくなるというA男に対して、むしろきれいな砂だからと採っていくと発言している。第4分節では、市報、回覧板を用いて、市の人に聞いてもらえる手立ては市報だと主張している。その後、C子69が新聞を主張したのに対して、70以下の一連の発言の中で、新聞の問題点を指摘している。第5分節でも新聞を出して、新聞まで大げさにしなくても述べている。お金も出して、(新聞の)取材にはお金がかかるのか教師に尋ねている。このように、新聞に対しては慎重な立場をとって、C子と議論している。

〈E子〉市報へのゴミ対策の掲載の可能性や、浜崎と東の浜の海岸の色の違い、チラシを置く場所への配慮など、細かい点について追究している。

- ①第3分節では、市報を2回用いて、市報には記事を簡単に載せられるのか尋ねている。また市報とは何か、わからない子どもに説明している。第5分節では、浜崎、東の浜、砂を出して、海岸の砂の色の違いについて発言している。

↓

- ②第2分節では、ゴミ拾いを用いて、ゴミ拾いをしてきたが変化がないので、(未来では)浜は狭くなると述べている。第4分節では、看板、ゴミ拾いを出し

て、看板はちょっといやな気持ちになったりするので、ゴミ拾いをする方がいいと述べている。さらに、チラシを置く場所をもっと考えた方がいいと発言している。

〈F子〉…環境問題に関心をもって、対策を示している。

- ①第3分節では、市役所を用いて、1ヶ月ぐらい頼まない、市報には簡単に載せられないのではと発言している。第4分節では、教師とのやり取りの中で5回発言して、貝を3回、砂を2回用いて、アサリ貝がとれなくなると報告している。第8分節では、地球温暖化を出して、地球温暖化を防いで東の浜を広くすると述べている。

↓

- ②第4分節では、市報、新聞、お金を出して、市報には多分のせてもらえるけど、新聞はお金がかかるのではと述べている。第6分節では、市報を用いて、市報が自宅には配られてないと発言している。第7分節では、市報と新聞を用いて、(新聞にお金がかからないことが分かったこともあってか) どちらにも載せてもらえばいいと発言する。

〈G男〉…業者が海底の砂をとっていることに強い関心を持っている。東の浜の未来に関してはややあきらめ気味の発言も最初しているが、教師に自分の意思を尋ねられて、自分の考え(ゴミ拾いをする)を出している。

- ①第3分節では、お金、市役所、ゴミ、東の浜を用いて、お金を出しても市報で宣伝することも考えないといけないと発言している。第9分節では、ゴミ拾い、陸地、ゴミ、砂、海底を用いて、清掃をしてもあまり変わらないし、未来はよけいにひどくなると述べている。それに対して教師に自分はどうしたいのかと尋ねられて、ゴミ拾いを用いて、ゴミ拾いをすればきれいになると述べている。

↓

- ②第2分節では、松原、ゴミ拾いを用いて、ゴミ拾いをしたら浜がきれいになると発言している。第3分節でも、ゴミ拾い、海底、砂、仕事で稼ぐを出し

て、ゴミ拾いをしたら浜はきれいになる、と述べている、第4分節では、看板、ポスター、ゴミを用いて、看板やポスターに賛成している。第6分節では、市報を用いて、市報がどんなものかわからないと発言している。第8分節では、確かめを用いて発言しているが、教師にどうやって調べるのか尋ねられて、本とかで調べると述べている。

〈H男〉…他の子どもがあまり出していない点に着目して、述べている。

- ①第4分節では、浜崎、東の浜、ゴミ、自覚を用いて、きれいにするには自覚が大切と聞いたと発言している。それに対して教師からどんな自覚か尋ねられ、自覚の中身（きれいにしよう）を述べている。第6分節では、砂、陸地を用いて、陸地が少なくなっていると発言している。

↓

- ②第7分節では、ゴミ、東の浜を用いて、魚を捕るときの浮き輪みたいのも東の浜にあると指摘している。その発言に対して、教師は漁師さんにもアピールするかと尋ねている。

〈I男〉…インタビューしたIさんの影響からか、海底の砂がとられていることを非常に問題ととらえている。

- ①第4分節では、インタビューで聞いたこととして、海はきれいになるときは全然ないと発言している。第7分節では、教師とやり取りをしつつ3回発言して、このまま、ゴミ、海底、砂を用いて、このままだったら海の中の砂がなくなると発言している。

↓

- ②第2分節では、教師から前回の話し合いについて、どういうことを言ったかと確認され、海底の、と答えている。教師も海底の砂と発言して、確認している。第4分節では、ゴミ拾い、看板、海底、ゴミを出して、自分たちができることとして、ゴミ拾いや看板づくりをあげている。第8分節では、ゴミを3回、看板、砂1回用いて、看板に書く中身（ゴミか海底の砂かのどちらか）を述べている。

〈J子〉…細かい状況を丁寧に示し、説明している。

- ①第4分節では、アサリ貝の収穫制限の札（フダ）について述べている。第7分節では、L男に、先生からの質問への答えのヒント（東の浜の未来についての選択肢）を示している。

↓

- ②第2分節では、ゴミ拾いと砂を用いて、ゴミ拾いをしても砂が増えるとは限らないと述べている。第3分節では、砂を用いて、浜がきれいになったら砂はもっととられると発言している。第7分節では、新聞、市報を用いて、それぞれのメディアに適した対象について述べている。

〈K子〉…ゴミの現状を問題視して、その対策を丁寧に示している。

- ①第5分節では、ゴミと注射器を用いて、浜に外国から注射器が流れていると述べている。

↓

- ②第5分節では、新聞、ゴミ拾いを2回、写真を1回用いて、ゴミ拾いをしている写真を新聞に載せたらと、積極的な提案をしている。

〈L男〉…授業の後半で、教師や他の子どもからの丁寧な支援を受けて、自分の意見を述べている。

- ①第7分節では、教師とのやり取りのなかで、砂、ゴミ拾いをを用いて、（未来の予想として）砂が汚くなる、みんながゴミ拾いをしたらきれいになる、と発言している。

↓

- ②第7分節では、（東の浜のための対策に関して）、教師にどれを選ぶか尋ねられ、他の子どもたちに選ぶ項目を示してもらって、ポスター、新聞を用いて発言している。

〈M子〉あまり発言はないが、他の子どもの発言をよく聞いている。ゴミ拾いをアピールする方法を丁寧に考えている。

## ①授業中の発言はない。

授業後の感想は以下の通りである。(今日の、とびうお〈総合的な学習〉は先生方もいっぱいおられたし、ビデオカメラも使っていたので、きんちょうして発表できませんでした。いろいろみんなの意見は聞けたのでよかったです。とくに、H男君の「自覚したい!」とか、A男君の「ゴミ拾いしたら、キレイになる!」です。じ〜んと来ました。スゴイです。次は、今日のじぶんもふくめて、いっぱい発表したいです。)

↓

## ②第4分節では、東の浜、ゴミ拾いを用いて、東の浜でゴミ拾いをしている所を、プリントしてひまわり(コンビニ)に置いてもらい、来た人に見てもらおうと提案している。

〈N子〉(発言はないが)自分が知らないことを知ることや、相手に(自分たちのことが)伝わることを重視している。

## ①授業中の発言はない。

授業後の感想は以下の通りである。(今日、みんなで話し合っ、インタビューのことを話し合っ私の知らない事がたくさん知れたけど、発表ができなかったので、こんど、する時は1回ぐらいは発表をしたいです。)

↓

## ②(教師が発言させようと対応しているが)授業中の発言はない。

\*3学期に筆者が参観した授業(3月10日の総合的な学習…本実践の振り返り)では、N子は1回、次のように発言していた。(新聞を送ったときは、これでもう東の浜の学習は終わるけど、読んだ人に伝わってうれしいなあと思いました。)

## 5 教師の発言状況

〈教師〉…子どもたちが明確に自分の意見を出すことや、他の子どもの意見を考えて発言することに配慮した指導を行っている。さらに、自分はどうするのか、という主体的な判断・行動を子どもたちに確認している。また、発言

の少ない子どもへの対応も多く見られる。なお、事例①では、最後の方で、未来を用いて追究課題を示しているが、子どもたちからは、(B子以外)未来は出ていない。代わりに、このまま(だったら)、という、より緊迫感、切実さを感じさせる言葉が多く出ている。事例②では、確かめやアピールを多用するなど、子どもたちに積極性や行動化を求めている。また、C子から出た新聞も多く用いている。それに対して、子どもたちからは、確かめは出ていたが、アピールは出ておらず、このあたりに教師と子どもとの温度差がやや伺える。また、訴える方策として新聞か市報かについて、子どもたちは多面的に検討をしていたが、新聞はアピール(教師が多用していた言葉である)がより広くできるメディアであり、教師が子どもたちに採用して欲しい方策だったのではと推察される。

①第1分節では、ゴミを用いて本時の課題を確認している。第2分節では、2名の子どもの発言内容を確認している。第3分節では、インタビューの報告者(A男・C子)への質問はないかと子どもたちに尋ねている。第4分節では、市報、東の浜を用いて、市報から東の浜へと話題を転換している。第5分節では、市役所や注射器などを用いて、流れ着いたゴミの中身や回収する人を確認している。第6分節では、ゴミや陸地を用いて、子どもの出した発言内容を確認している。第7分節では、陸地、東の浜、松原、未来を用いて、今まで出ていた子どものインタビュー報告をまとめ、東の浜の未来を予想するという課題を出している。第8分節では、D男の発言内容を確認している。第9分節では、地球温暖化、東の浜、未来を用いて、子どもたちの地球温暖化の話し合いを転換させて、未来予想を出すように指示している。さらに、自覚、市報といった授業中に子どもたちが出していた言葉にも言及して、自分たちがしたいことも確認している。

↓

②第1分節では、東の浜、ゴミ拾、海底、砂、松原を用いて、前回の授業内容を丁寧に確認している。第2分節では、海底、砂、松原を用いて、子どもたちから出た未来予想に丁寧に対応している。第3分節では、海底、砂、確か



めを用いて、前の分節で出た、海底の砂を業者がとっている問題を確認している。第4分節では、話題を転換して、自分たちにできることは、と投げかけて、子どもたちの意見を求めている。そして、子どもから出た市報、回覧板、新聞を用いて、他の子どもたちに意見を求めている。第5分節では、東の浜、作文、お金、新聞を用いて、新聞に（意見を）載せるのは難しいか尋ねている。また、新聞にのせるべき内容について確認している。第6分節では、新聞、市報を用いて、新聞に載せるのはみんなの働き方しだいと述べている。第7分節では、発言がなかった子どもに発言させようと、一対一的な丁寧な対応をしている。アピールも用いている。第8分節では、アピール、看板を出して、誰へのアピールか今度、考えようと述べている。さらに、確かめも用いて、課題（海底の砂を採っている問題）をどのように調べるのか確認している。

## 6 授業者のW先生への質問（インタビュー）

…2012年10月1日 pm21:11から15分程度電話で質問（分析結果を郵送した後で）

質問①…筆者の原稿と「発言表」に目を通してどう思ったか。

- ・面白いと思った。かつて、「社会科の初志をつらぬく会」の集会に参加して授業記録を読む際にも、どう読めばわからないことがあったので、子どもの発言の順番とかを簡単に書いた表（「発言表」を簡単にしたようなもの）を自分なりに作ってみたこともあったが、子どもの人数が多いとむずかしかったりした。
- ・「発言表」では発言の中身（キーワード）が示されているので、わかりやすいと思った。子どもが、そのことを肯定しているか、否定しているのか、といった細かいところはさらに見ていく必要があるとしても、とても面白い。
- ・最後の集計表で、1時間の授業でその子が何回、発言しているのか等が数値でわかるので面白い。
- ・一人ひとりに対する分析（読み取り）が最後に書いてあるが、1、2回の授業の分析でもカルテ<sup>5)</sup>や座席表に似ている点があると思った。カルテは間を

において、時々とって行くものであるが、授業分析も集中してとるカルテのようなものだと感じた。1回の授業でも子どもの特徴がよく出ている。

質問②…子どもについての分析（とらえ）について、W先生と筆者との間にズレはあったか。

- ・一人の子どもについて少し違う面があった。その子について先生（田代）は、積極的な面を述べているが、私は、その子は自分を出して主張することがやや弱く、他者から影響を受けすぎてしまう面があるように思っていた。→（田代）確かにそのような面はみられるし、最初、そのようなことも少し記述していた。しかし、授業分析では、事実在即した理解と同時に、子どもにとってこれからの可能性をとらえること、つまり、あえて「有利にみる」ことも大切だと思ったので、そちらを強調してみた。→（W先生）成程と思った<sup>6)</sup>。
- ・発言のない子どもについて、その背景・事情をどの程度、（実践記録等で）知らせておいたらよいか、迷う点もある。しかし、発言のない子についても、作文などで、授業への意識（次は発言したい）などを出してもらえているので、ありがたかった。

質問③…その他、何か思ったことがあったら。

- ・教師の発言についての分析で、教師と子どもとの温度差のようなものを指摘されているところが大変ありがたかった。→（田代）どうしてか。→（W先生）子どもたちの考えをもとにできるだけ授業を進めて行こうとしているが、私には私なりの欲もある。しかし、もっと子どもたちの考えを引き出したり、寄り添いたいと考えている。指摘されたことで、教師が自分の意見は持ちながらも、子どもたちの方向に寄り添って行きたいとさらに思った。

〈インタビュー結果の振り返り〉

- ・W先生が、「発言表」を授業をわかりやすく示す「面白い」ツールととらえていることや、「発言表」は細かい解釈をするための中間的な手がかりとして有効だと思っていることがわかった。

- ・W先生が言う「面白い」の中身をもう少し掘り下げて確認すべきであった。これは、今後、機会をみつけて行いたい。
- ・W先生は、授業分析とカルテという、教育実践のための子ども理解の「手だて」の関係（集中的と継続的）について述べているが、その指摘は、授業分析とカルテの違いや相補的な活用を考える上で、貴重な示唆を与えるもので、今後も検討して行きたい。
- ・本事例での筆者の子どもについてのとらえに関しては、事実に即した記述をしつつ、可能性についても示す、といったように、より丁寧な記述をすべきであった（なかなか、難しいが…）。
- ・W先生のように高い目標、志をもって教育実践に取り組んでいる教師に対しては、教師の意図と子どもの活動のズレなど、はっきりと課題を指摘することが大切であると（今さらながらではあるが）わかった。

## 7 まとめ

今回、このように同一の教師による連続した授業実践を取り上げ、主要な言葉の個別集計欄を加えた「発言表」を用いて分析することで、子ども個々および教師の発言の特徴や、授業間での発言の変化・連続の状況を、内容面から明瞭にすることが、ある程度、実現できたといえるのではなからうか。特に発言の多い子どもの場合には、よくとらえることができた。また、教師の指導と、子どもたちの活動との一致やズレの様相も把握することができた。ただ、これは当然のことであるが、あまり発言のない子どもの特徴はとらえにくかった。この点については、やはり「カルテ」や、その他の方策を併用すべきであり、今後の課題と考えられる。さらに、教育実践研究としての授業分析にとって重要なのは、単に実態を示すだけでなく、実態を踏まえつつも、さらなる授業の可能性、子どもの可能性を示すこと（未来性）<sup>7)</sup>であるが、これも今回、十分でなかった面があるので、今後の課題としたい。

その一方で、W先生へのインタビューから、「発言表」が授業者にとっても意義があること（「面白いこと」、授業分析の中間的な手立て、自分の課題の確

認) が示されたことは貴重であった。「面白さ」も学校現場で継続的に研究を進めるためには重要な要素の一つだといえよう。ただ、授業者の言う「発言表の面白さ」の内実については、今後も掘り下げて検討していきたい。

### 【注】

- 1) 重松鷹泰『授業分析』明治図書 1961年。
- 2) それらの研究成果は以下の論文、等に発表されている。中村亨「発言表を使用する授業分析 —授業における子どもの相互関係にふれて—」教育方法学研究第12巻 1987年、田代裕一「発言表を使用する授業分析 —ワープロ処理による授業の内容的構造の追究—」教育方法学研究第14巻 1989年、田上哲「授業の縦断的研究に関する一視点 —個人別発言表を使用した子どもの発言の追究—」教育方法学研究第16巻 1991年
- 3) 「社会科の初志をつらぬく会」は民主主義社会を支える人間の形成を目指し、社会科での問題解決学習を重視している。
- 4) このような研究には以下のものがある。「授業における発言の様相—解釈 —小学校1年生の授業を事例に—」西南学院大学児童教育学論集第27巻 2001年から、最近では「授業実践の様相—解釈的研究—『発言表』による授業の内容的構造の追究—」西南学院大学人間科学論集第7巻第2号 2012年。
- 5) ここでいう「カルテ」とは、上田薫が創始した子ども理解の手立てであり、教師が子どもの言動についてハッとしたこと（発見したこと）を中心に簡単に記録して、すこし、記録がまとまったら解釈を加えていくものである。カルテの理論と方法については、上田薫『学力と授業』黎明書房 1978年 182頁-199頁などに詳しく記されている。
- 6) この応答に関して少し補足しておく、重松鷹泰は、子どもの可能性をとらえること、すなわち、「事実を踏まえつつも」あえて「子どもにとって有利になるように解釈すること」の大切さを主張しており、今回、筆者も重松に倣って見たに過ぎない。たとえば、重松鷹泰責任編集 中村亨・田島薫『授業における評価研究』明治図書 1971年、の「まえがき」で、重松は「わたくしは、評価というものには、希望的評価というものがあるのではないか、と思います。…略…評価は人を裁くことではありません。冷たくきびしいように見えながら、ねがいをこめて、人を見ることだと思っています。…略…」と述べている。
- 7) 6) の文献の中には、次のような記述がある。「…略…教育の内容的改善をはかるためには、哀れな学習者を鞭打つ動機付けとしての評価でなく、教育の実効性について内容のある予見を与える評価が必要である。したがって、手がかりを得る場面は多様なところに求められたとしても、常に評価の目的は将来におかれるべきなのである。授業分析においても、究極的には授業の可能性が、したがって子どもの可能

性が（子どもをはなれて授業は成立しない）評価されるべきなのである。」 161  
頁。

西南学院大学人間科学部児童教育学科

佐賀県 H小学校5年 W先生指導 総合的な学習 ①-1  
「未来に残そう東の浜」 2009年11月6日

授業における発言内容の一部													分各分館での主要な言葉					
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	C	教師	子ども	教師	子ども		
													みんな伝えることがあると どんどん前に行きたいよ	そぞに書くことを実践する	1			
													いいい、ノートを前して 原材した、昨日、出ていますか	はい	2	Π Π Π Π △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △		
													前てないところを前してこう	お前さんにインタビューして 海水のきれいなとき、汚いとき 潮や台風のとときが西いんだけど	人口が増えるよになる。夏 涼で秋が長いとられているから ぶこの島の変化を聞いてら かになり減っているよ。目標が編 む事を減さない。ゴミ減いを。	3		
													お前さんと、筑前がさいなの 後がしてどんなお前さんですか お前さんは、東の浜の近く に生きていてかーと	お前さんは気持ちいい 1番目、どんどんぶがたま どうしたらいいと聞いてますか みんなどんぶを替えてら 2番目、なぜぶがどんどん みんなあつうのを海津市へ置く	4			
													そこんどもう一回言っ	お前さん、お前さんどんどん ぶが減ってくるから みんなあつうのを海津市へ置く お前は、台風や地震が来たとき みんな心配しないで お前さん、気分はどうですか 気分がいいですよ。最後が 減らすとむと、ぶは減って 減らさうよ。はい	5			
													海津市にはありますか？ ない？ しつかり聞いてる？ 海津市？	海津市報にのせてるよって書いて 簡単に、のめれんんですか？	6	θ θ θ θ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ ⊙ \$ \$ \$ \$ Π		
													みんなに聞いてるんだよ どう思うか、働の人がきて	お前さん 市報は、1ヶ月くらい働んだら 働かない、のめれんない お前さんの質問に別して 人用さ 市報は、なんですか？ 1ヶ月の、最初へんに たぶん、なんか、こう、本の 市報新聞にのせてもらうのは 海は、汚したりしたらいい 市報新聞にのせてもらうと たぶん、せうとがでると 市報市報、市で仕事をする人 家の前はみんな、大事 散歩する人も、そこで遊ぶ人も 自分が大事につかうところ 市報市報、自分が考えること らんなんか、たぶん、さうさ あつうの市報、さうさ お前さんがさう言っていたから お前さんを出したら、のせてくれる お前さんを出して、宣伝した お前さんを出すこともなるかも ぶが、お前さんの お前さんの前をすたには お前さん、さういふかあるよ。	7			
													これに関係して、お前さん	いまお前さんとG集くんたちが	8	Ω Ω Ω Ω ♥ ♥ ♥ ♥ Π		
													この市報のところはまた あとで考えていいですか？ ポスター、市報 インタビューしてきたこと	海津市報の家の書いて どうしたら、自費をすること、 お前さん、自費をしないな お前さん、自費をしないな お前さん、自費をしないな お前さん、自費をしないな	9	△ △ △ △ Ω Ω Ω Ω θ θ θ θ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △ △		
													お前さん、自費をしないな お前さん、自費をしないな お前さん、自費をしないな お前さん、自費をしないな	お前さん、自費をしないな お前さん、自費をしないな お前さん、自費をしないな お前さん、自費をしないな	10	△ △ △ △ Ω Ω Ω Ω θ θ θ θ △ △ △ △ △ △ △ △		

佐賀県 H小学校5年 W先生指導 総合的な学習 ①-2  
 「未来に残そう東の紙」 2009年11月6日

授業における発言内容の一部														分各分節での主要な言葉			
T	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	C	教師	節	教師	子ども
男子	男子	男子	男子	男子	男子	男子	男子	男子	男子	男子	男子	男子	男子		(前表に記録)		(前表に記録)
														国語総合のひとに聞いて 紙の広さは ちんまり変わっていない 汚れは 言はりミガも来て 汚くなったといわれて 編が舞ったときの海水の量は 糸輪と糸の長さの違いは 分からないで 紙の糸が汚れて			
														国語総合のひととは、正しい 「男くん はくはくさん聞いて それで編はきれいなるときは 全然ない。生き物とも 砂の粒の粒に変化があります」			
														もうちょっと大きな声で アサリ貝がとれなくなったと どうしたら糸の糸をきれいで たてを覚えてい。編かして 糸の糸で編ん。ゴミは捨てる			
														貝殻が編るってどういこと 食べれん 少なくなってる			
														アサリさん、なに貝だったの? アサリ			
														アサリも編っている 「多くのアサリ編り いまアサリをとったら貝殻? ふたがはってある 丸んぽまではいって			
														編に貝殻があるひと アサリさん 糸輪編り 白っぽい色 糸の糸、黒っぽい色と編き どうだったみんな見てきて こっちの編れている方も	◎◎◎ △ ▽ ☆ ◇	川 川 川 三 三 三 △ △ △ ▽ ▽ ▽ ☆ ☆ ☆ ◇ ◇ ◇	
														こっちがきれいな貝殻 アサリに糸輪編りにひと編いて 糸輪編り、黒い糸と編り アサリさん、黒い糸と編り アサリさん、黒い糸と編り アサリさん、黒い糸と編り			
														ここ編りしらすだね これA糸輪編りさんからの質問 N糸輪編りに行ったひとたちも だん糸輪編りのひとたちも 糸輪編りかいたの編りかいたの			
														それはどこからの質問? 編りさん 外国のゴミ、3年 前から編 り、ほかありますか? 糸輪編りが少なくなっている			
														この糸の糸の糸ですか? 糸輪編りの半分って編りですか? その半分 10分の5ぐらいの編 りか? 公文のプリントに書いてあった			
														いろいろ聞き取りはしてきて 糸輪編りが少なくなってきたよ だからみんなのことをわけて みんなが 大人になるはず この、糸の糸の糸	Σ Σ Σ △ △ △ ▽ ▽ ▽ ☆ ☆ ☆ ◇ ◇ ◇	全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 △ △ △ △ △ ▽ ▽ ▽ ▽ ▽ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇	
														そうですね、このままだったら 今日まで言っていないよってひと もいたくないですか? はい			

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14













佐賀県 H小学校 5年 W先生指導 総合的な学習 ②-4 「本家に残さず東の浜」 2009年11月17日

授業における発言内容の一部 各分節での主要な言葉

教師	子ども	節	(前表に記録)	(前表に記録)
	いや、かからないです	1月も?		
	かからないです この前、お前	来てくいてっていったのは		
	どうやって新聞できるかな	はい	5	
	お話ししてくれたい人は	A記者		
	もう一人の人誰だっけ?	Bさん		
	そういう人の話聞いてよね	見た、見た	00	000000
	みんなは話合ってるので	文、文		
	お話しもできる 新聞に載せて	行書、はい		
	それはみんなの動き次第です			
	「からつ市報」 どういう紙	C子さんはい		
	分かんなくてそれははい	え、これ分かん	6	
	全員家に しっかり見てるか	「からつ市報」 知られどろん		
	中身どんなのなっているの?	「からつ市報」 知られどろん		
	中身も読んでかかないかな	「からつ市報」 知られどろん		
	中身もちゃんと見て	「からつ市報」 知られどろん		
	これだったらゴミ拾いのこと	「からつ市報」 知られどろん		
	J子さん、この中で自分の考え	「からつ市報」 知られどろん		
	ほかになんか新しいアイデア	「からつ市報」 知られどろん		
	たくさんの人、アピル、これ	「からつ市報」 知られどろん		
	それで	「からつ市報」 知られどろん		
	朝にどっちだと読む?両方	「からつ市報」 知られどろん		
	幅広くした方が良さそう?	「からつ市報」 知られどろん		
	幅広くたらよさそう?	「からつ市報」 知られどろん		
	J子さんです、今	「からつ市報」 知られどろん		
	どっちのほうが結果ありそう	「からつ市報」 知られどろん		
	でも誰だっけじゃないよー	「からつ市報」 知られどろん		
	J男さんは、なんかこの中で	「からつ市報」 知られどろん		
	えーじゃなくて、聞いてった?	「からつ市報」 知られどろん		
	やれそうなのどの?	「からつ市報」 知られどろん		
	だめ、冊あるように言って	「からつ市報」 知られどろん		
	まだ?	「からつ市報」 知られどろん		
	ボスターにする?	「からつ市報」 知られどろん		
	田男さんが言っています	「からつ市報」 知られどろん		
	田男さんにもアピルしない	「からつ市報」 知られどろん		



佐賀県 H小学校5年 W先生指導 総合的な学習 「主要な言葉」の使用状況一覧 「未来に残そう東の浜」 (発言者名は2009年11月6日の授業に基幹に準拠)															
①2009年11月6日															
②2009年11月17日															
T	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	K	M	N	
①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺	①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
①11月6日の授業での 主要な言葉とその記号 (*厳密には11月17日の授業で は主要な言葉としてでない) ♪.....ゴミ ㊱.....浜崎(地名) ㊲.....東の浜・東唐津の浜 ▲.....ゴミ拾(ひろ)い ・ゴミを(は)拾 ・ゴミひろい・校区内清掃 ㊳.....市報(市報からつ からつ市報) ㊴.....市役所・唐津市役所 ㊵.....お金 ♥.....自覚 △.....砂・砂地・砂浜 ㊶.....貝・アサリ(貝) ・貝殻 ㊷.....注射器 ㊸.....陸地 ㊹.....松原 ㊺.....未来 ㊻.....このまま(だったら) ㊼.....海底・海の中 ▲.....地球温暖化 ↓ ②11月17日の授業で さらに出た主要な言葉と その記号 ♪.....仕事で稼(ぐ) ㊱.....確かめ・調べ(る) ♡.....看板 ◇.....回覧板 ㊲.....新聞(佐賀・朝日・ 毎日新聞) ☆.....ポスター #.....チラシ ◆.....作文(風) ㊳.....写真 ㊴.....アピール															